

2025年10月22日

男女が共に担う地域防災

～令和6年能登半島地震に学ぶ現状と課題～

池田 恵子

(Ikeda.Keiko@shizuoka.ac.jp)

静岡大学グローバル共創科学部 教授

同防災総合センター 兼任教員

減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表

<http://gdr.org/>

内 容

- 1 令和6年能登半島地震の経験から
性別・立場に応じた支援の現状と課題
- 2 共に支え助け合う地域防災の体制へ
静岡県の実策と現状

能登半島地震：女性たちの経験

令和6年能登半島地震の女性の経験と意思に関するヒアリング調査

<http://gdr.org/2024/04/1730/>



概要版



報告書



調査期間：2024年3月21日～4月2日

調査参加者：13名

項目	内訳
年代	10代～70代
居住地	能登の自治体（10）、金沢市の避難先、能登と二次避難先を往復、支援者として能登と居住地を往復（各1）
職業など	観光業（2）、医療、福祉、農業・食品加工業、地方議員、民生委員、職業訓練中、就業準備中、協業組合、一次産業を中心とした複数の職業、支援団体職員、高校生（各1）、
地域学校役員の経験	地域自治組織の役職（2）、学校役員、地域婦人会役員（各1）
U・Iターンの経験	Uターン者（5）、Iターン者（1）

「令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査」の概要

https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/notohanto_r7_research.html

概要版



報告書



【調査の目的】

- 被災した自治体や支援団体の備えや発災時の対応、復旧・復興の取組など、「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」に基づく災害対応状況を把握する
- 課題と好事例を整理し、今後の改善に向けた取組の方向をとりまとめる

【調査期間】

【アンケート調査】 11月1日～12月6日、 1月14日～2月3日

【ヒアリング調査】 12月20日～2月21日

【調査対象】

①被災自治体（県、市町）	45 団体	（回収率88.2%）
②応援自治体（都道府県、市町村）	637 団体	—
③男女共同参画センター	255 団体	（回収率69.1%）
④民間支援団体	39 団体	—

避難生活の環境（プライバシー・衛生）



西日本新聞



毎日新聞

【インタビューより】

「発災後しばらくは命を守ることに注力するなかで、更衣室が用意されずに、布団の中で着替えていた。プライバシーの問題は後回しになっていた。」

—避難所運営の支援にあたった女性（60代）

- 着替えや授乳
- 雑魚寝が続く
- 乳幼児・障害を持つ人/認知症の人、その家族
⇒避難所に居られない
⇒支援につながらない
- 避難所間の格差



- 指定一般避難所が1月31日以降も開設されていた14市町において、避難所における男女共同参画の視点による取組がいつ頃から開始されたか

『令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査』より池田作成

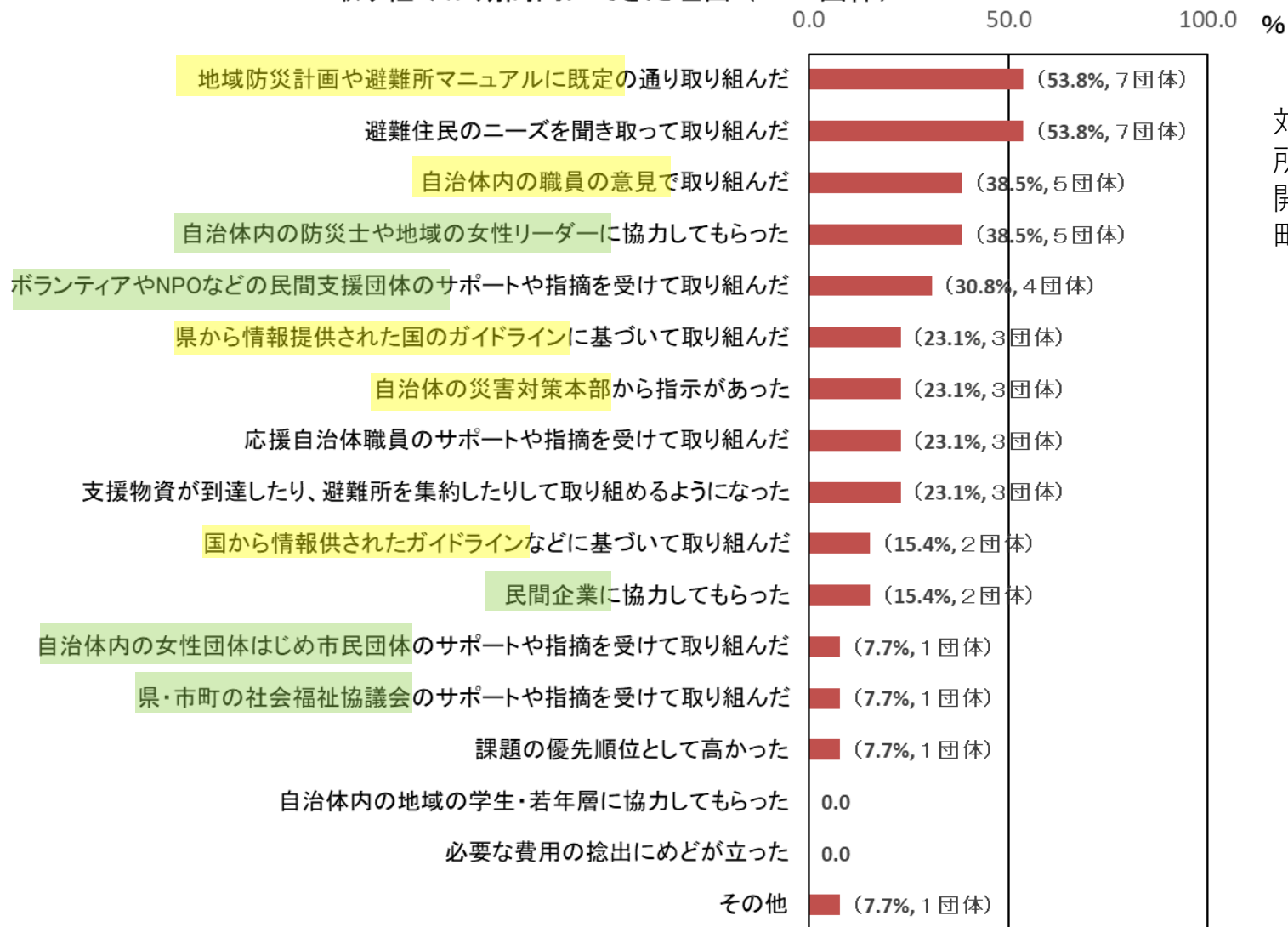
指定一般避難所における男女共同参画の取組		1週間以内	1か月以内	それ以降 時期不明	実施せず 把握せず	合計
子育て	授乳室の設置	1	2	1	10	14
	キッズスペースの設置	2	1	2	9	14
プライバシー	男女別更衣室の設置	6	2	1	5	14
	間仕切りによるプライバシー保護	9	3	1	1	14
トイレ	男女別トイレを離れた位置に設置	7	0	1	6	14
	女性トイレを男性より多めに設置	6	0	1	7	14
	トイレの個室や経路の照明	12	1	0	1	14
運営・ルール	責任者に男女を配置	5	0	0	9	14
	固定的役割分担とならない分担	5	0	1	8	14
	相談室・意見箱の設置、相談体制	4	2	1	7	14
	名簿管理の情報管理の徹底	7	1	1	5	14
安全対策	男女が共に行う防犯のための巡回警備	6	1	1	6	14
	性暴力・DVン防止のポスター掲示	2	7	1	4	14
	犯罪が起きにくいレイアウト	6	2	1	5	14

- ※ 早い対応あり: 間仕切り、トイレ(男女別に離れた位置、照明)、名簿管理
- ※ あまり対応がない: 運営体制(女性責任者の配置、性別に固定した分担)、子育て家庭への支援
- ※ 早くやるか、やらないか⇒自治体間の差が大きい
- ※ 市町による格差は、被災の度合いや市町部の違いによる差とは関係ない
- ※ 避難所の取り組みが多い市町は、車中泊者、在宅避難者への支援も多い

・避難所の設備・体制ができた理由

『令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査』より池田作成

取り組みが期間内にできた理由 (n=13団体)



対象：指定一般避難所が1月31日以降も開設されていた14市町

計画文章への記載 + 職員研修

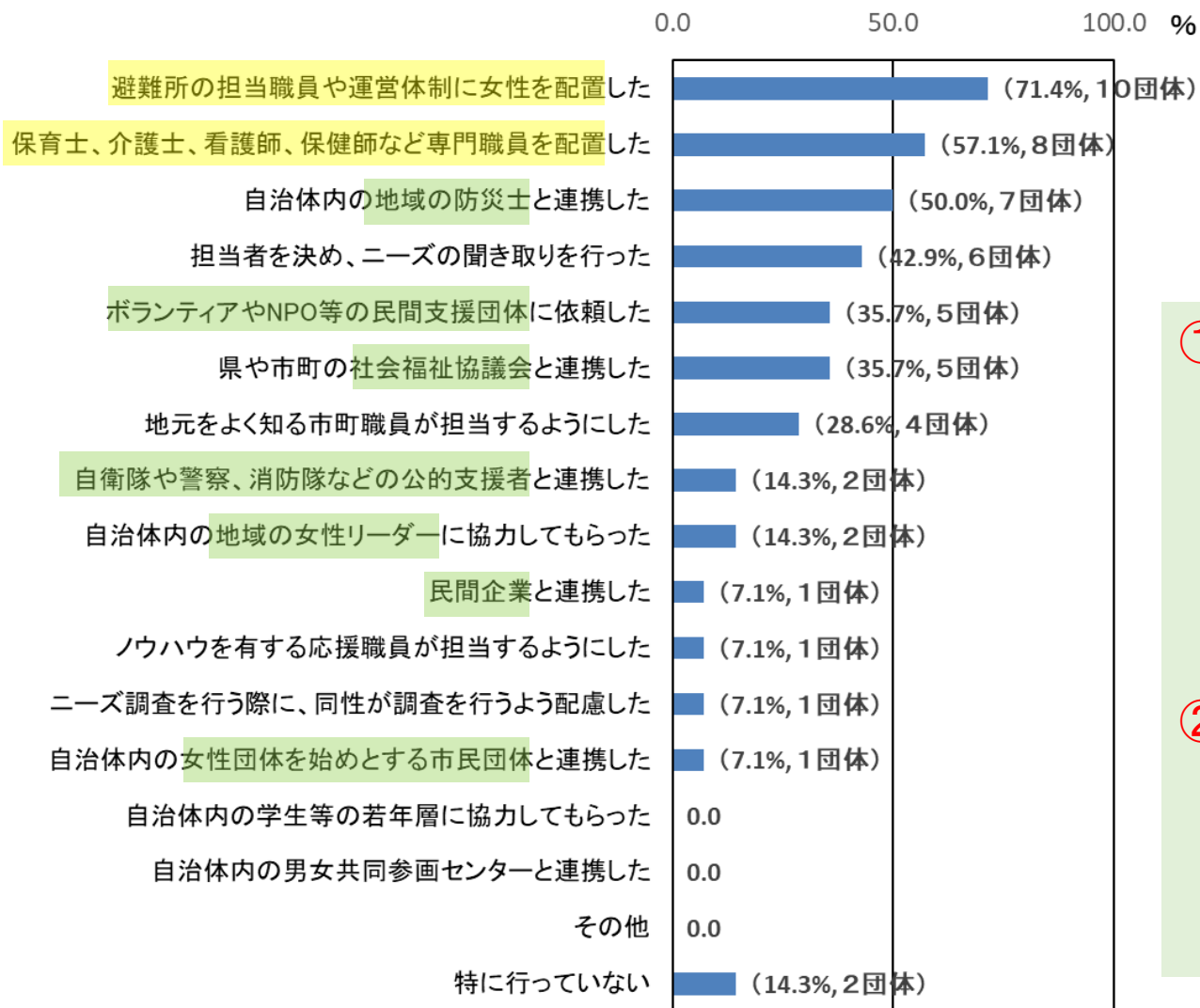
+

関係団体との連携

避難所におけるニーズ把握方法

『令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査』より池田作成

避難所における育児・介護・女性など多様なニーズの把握方法 (n=14団体)



対象：指定一般避難所が1月31日以降も開設されていた14市町

①男女共同参画の視点による取り組みが多い自治体は、複数の手段でニーズ把握を行い、連携団体の種類も多い。

②ニーズへの対応(母子支援、暴力対策など)も、多様な団体との連携を通して行われている。

女性職員の配置

+

関係団体との連携

- 在宅避難者、車中泊者への男女共同参画の視点による取組の状況

『令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査』より池田作成

在宅避難者への取組を行った自治体数

(指定一般避難所が1月31日以降も開設されていた**14市町のうち**)

在宅避難者への取組	実施団体数
妊産婦や乳幼児等の保健衛生・栄養管理の対策(相談など)	3
防犯対策(夜間パトロールなど)	3
名簿の登録	2
男女のニーズに応じた支援物資の提供	2
男女のニーズに応じた情報の提供	2
男女別のニーズ把握	0
その他	1
特にない	7
把握していない	2

車中泊者への取組を行った自治体数(車中泊者の有無を把握した**11市町のうち**)

在宅避難者への取組	実施団体数
妊産婦や乳幼児等の保健衛生・栄養管理の対策(相談など)	2
防犯対策(夜間パトロールなど)	2
名簿の登録	3
男女のニーズに応じた支援物資の提供	2
男女のニーズに応じた情報の提供	2
男女別のニーズ把握	0
その他	2
特にない	5

物資の不足と配布方法



- 女性・乳幼児・介護用品の不足
- 男性のみによる配布
- 在宅避難者が物資を受け取れず



【インタビューより】

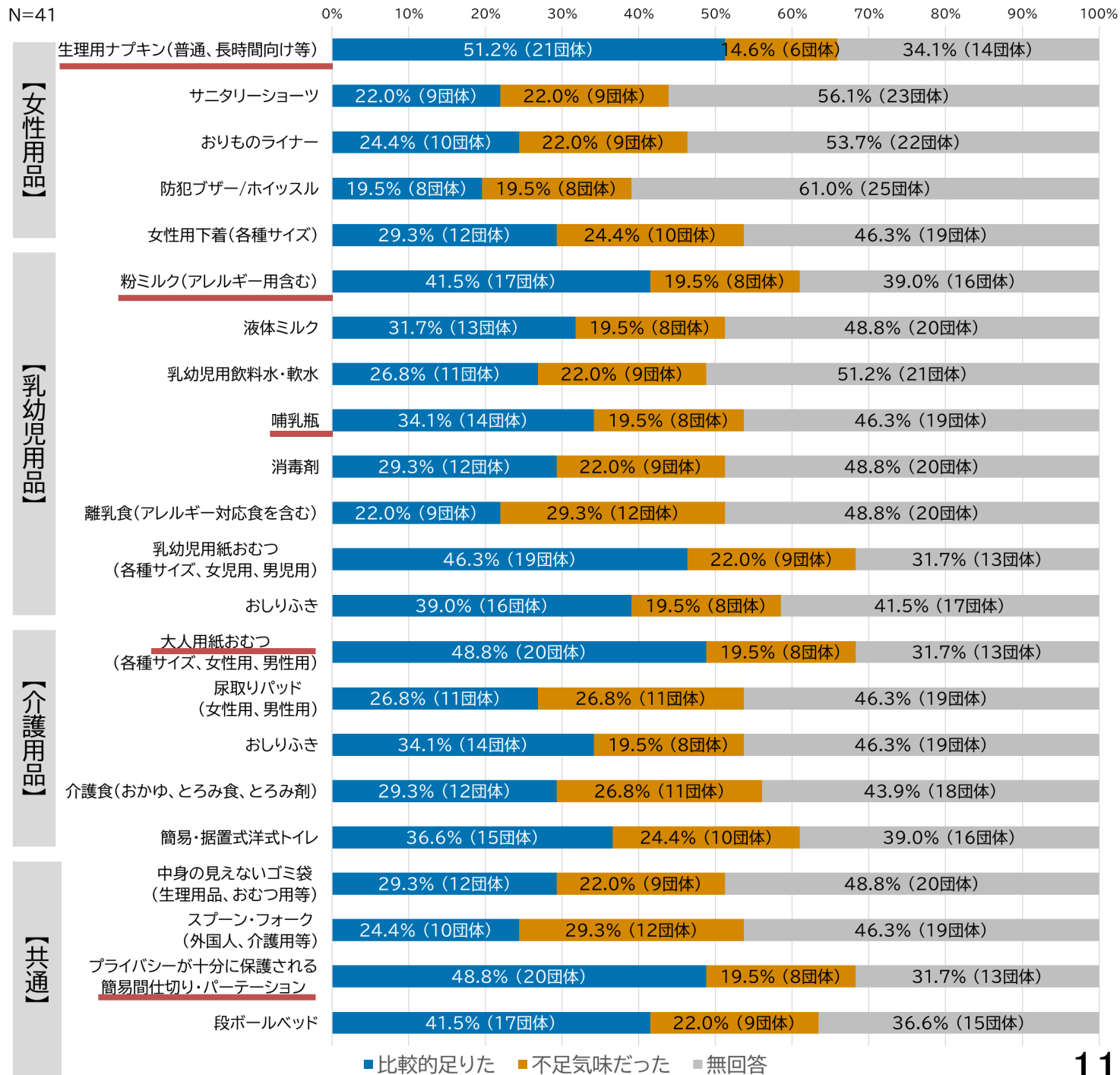
「物資を担当するのは男性。下着を選んでいるときに男の人がまわりについて見ている。若い女性みんなで取りにいった。悪気はないが、それが不快だ、ということは結びつかないんだなと思った。」

—避難所を利用した女性10

Data 令和6年能登半島地震で…物資の充足度

対象…被災41市町

『令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査』より



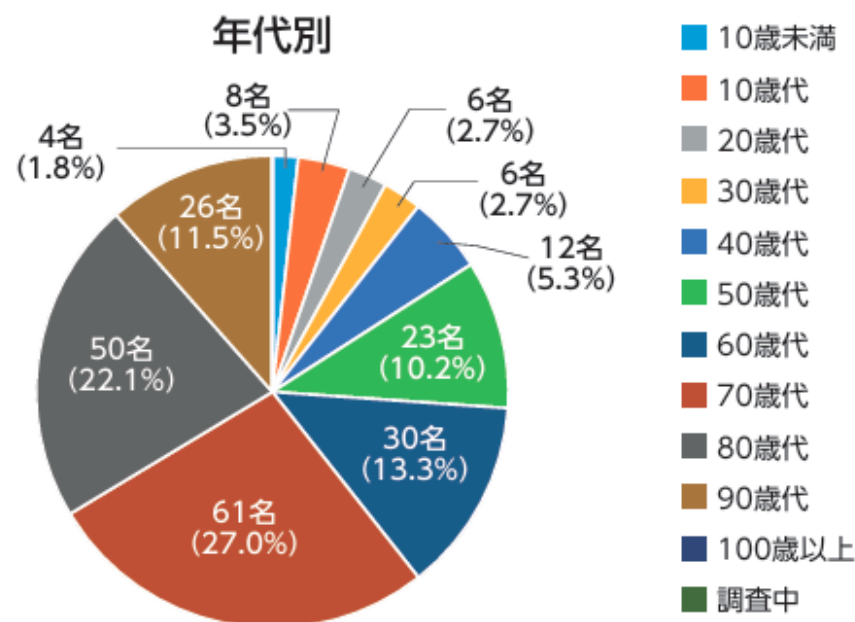
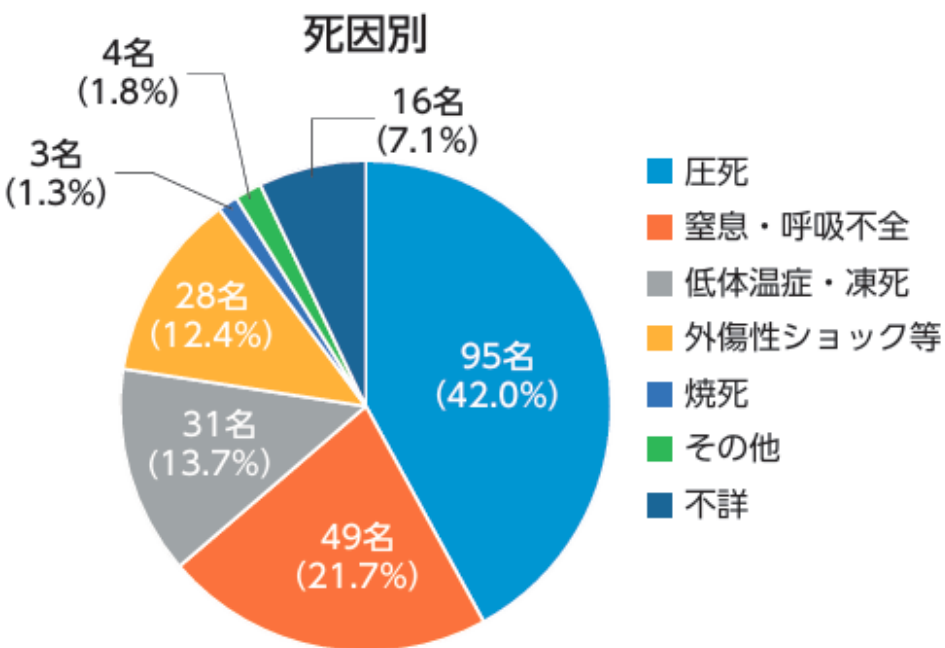
健康の問題



- 持病・介護度の悪化、感染症
- 男性はストレスを貯めこみがち
- 女性の疾患、妊産婦の医療支援不足
- エコノミークラス症候群の重症患者の7-8割は女性

Data 令和6年能登半島地震死者の死因及び年代

- 令和7年2月末時点。
- 石川県が発表した死者（災害関連死を除く）のうち、警察が取り扱った226名について。（死者・行方不明者は594名、うち災害関連死364名。）
- 年代別では70代が61名と最多で、80代50名、90代26名が続き、**70代以上が約6割を占めた。**



内閣府『令和7年度防災白書』より

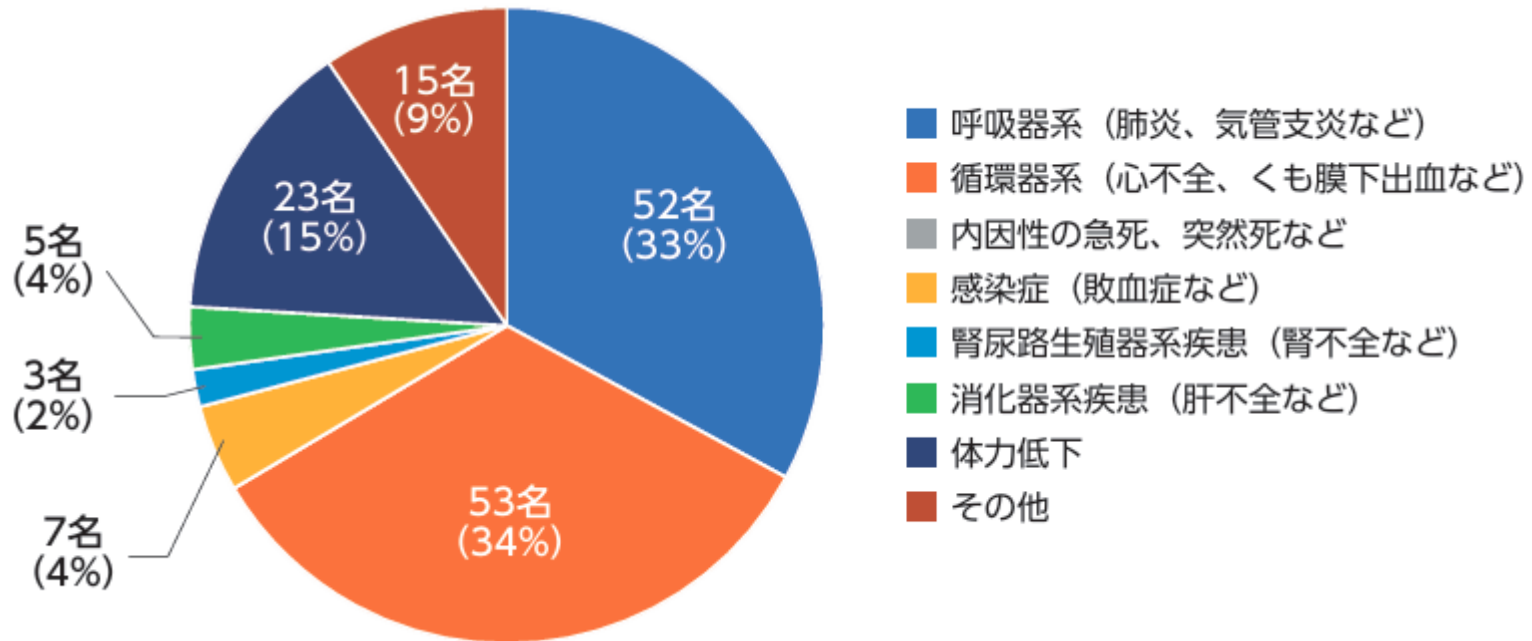
Data 令和6年能登半島地震で…災害関連死

● 令和6年能登半島地震で（石川県）・・・

- 直接死は**228人**
関連死認定は、**415人**（R7. 9. 3現在）

石川県庁「令和6年能登半島地震による
人的・建物被害の状況について」第21
5報令和7年9月3日

- 年齢が公表されている136名（R7. 2現在）のうち
80代以上が8割を占めた



避難所運営や復興協議への参画



- 責任者や委員は大半が男性
- 女性や障害者等が参画できない

➡ 被災者の半数を占める女性特有の要望、被災者支援の質を左右する栄養・衛生・育児・介護等の経験・知識が反映されない。

【インタビューより】

「同じ地域の人が集まっている避難所で何か言ってしまうと、その後の住みづらさにつながると考えるんだと思う。今は我慢。」
「男性だけが区長候補の対象。誰か区長をしなければならない、となったときに女性が候補にあがることはない。女性が候補にのぼれないというのもあるが、女性自身が手をあげない。」

—働きながら子育てする女性（30代）

若い世代には耐えられない



【インタビューより】

「私の同世代や、それよりも若い人はもともと地域に少なかったし、さらに今回の震災で数少ない若者たちが地元を離れていきました。私の知っている限り、『戻ってこない』って言っている人のほうが圧倒的に多いです。」

「避難所生活のなかでは、女性は、高齢男性たちから『かあちゃん』として、**地域の嫁**として用事を言いつけられる。避難所を出て在宅避難をし始めた知人の女性ところにも、避難所で炊き出しをするように連絡が来ていた。若い世代からすると、そのような価値観は耐えられない。私が知る限りの数少ない私と同世代の人の多くは地域を離れたが、避難生活でこうした地域の価値観が見えたことが、地元を出た原因の一つではないか。」

—高校卒業後一度故郷を離れるも、Uターンして地域で働きながら子育てする女性（30代）

A避難所運営を任されたBさんの手記より

A避難所

- 自主避難所
- 70-80名が生活
- 1月末で閉鎖
(1/26 学校再開)

Bさん(69歳、女性)

- 防災士
- 生産組合を退職後、パート
- 女性会、女性防災士会



閉鎖直前のA避難所の様子
(産経新聞 2024/1/30)

Bさん手記：発災～1/4



1/1 住民300人が避難したお寺

- トイレは、**汚物が山盛り**だった。数人に呼び掛けて汚物をどかし、**新聞紙をちぎって入れたごみ袋**を便器にかぶせて簡易トイレを用意した。その場でトイレの使い方のルールを定めて、一つのごみ袋で3人まで使うよう、住民に説明した。
- 車いすの人、高齢者が多かったので、「**医療関係者いませんか**」と募ったところ10名ほど名乗り出た。お寺の一室に医療室を作った。

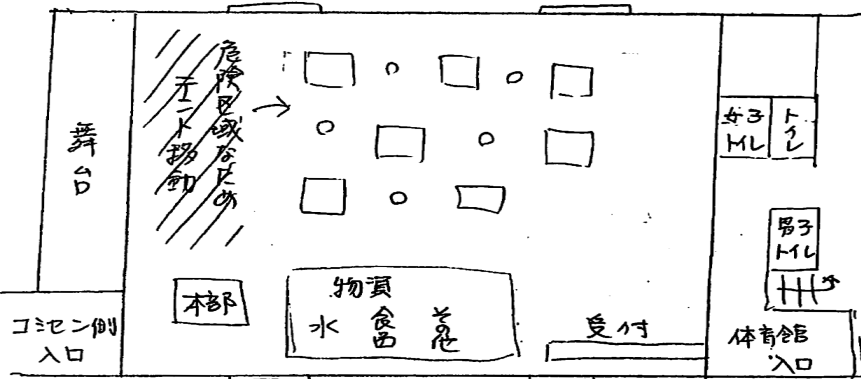
1/4 避難所へ

- その後、地区の学校が避難所となったものの、運営できる人材がおらず混乱。**町会、壮年会、女性会、民生委員……被災して地区を離れた人が多く、半数もいない。機能しない。**
- **地域の男性リーダーから運営を任せられ**、1か月間、避難所の環境整備から在宅避難者の支援に至るまで、現場を取り仕切った。

Bさん手記：避難環境の改善

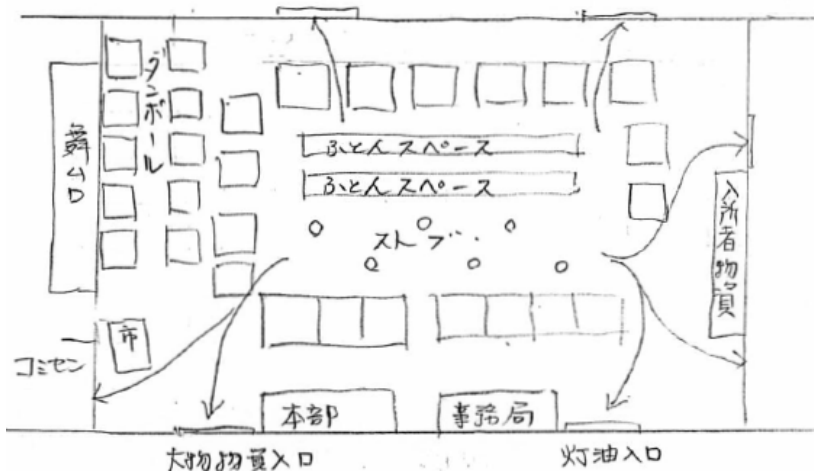
1/4

② 避難所(体育館)の配置(1回目)



1/9

・ 配置替え(3回目) 避難経路を確保する。



1/4

- ・ ストープの周りに50人、テント



別の避難所(西日本新聞、2024/1/8)

1/5

- ・ 第一回対策会議
- ・ 受付(女性ボランティアが聞き取り)
- ・ 調理室、救護室(ランチルーム)、ベビールーム(和室)
- ・ 汚物のみ回収開始
- ・ 地元の飲食店からお弁当受け入れ

1/6

- ・ 段ボールベッド・仕切り届く
- ・ 携帯の充電場所を設置

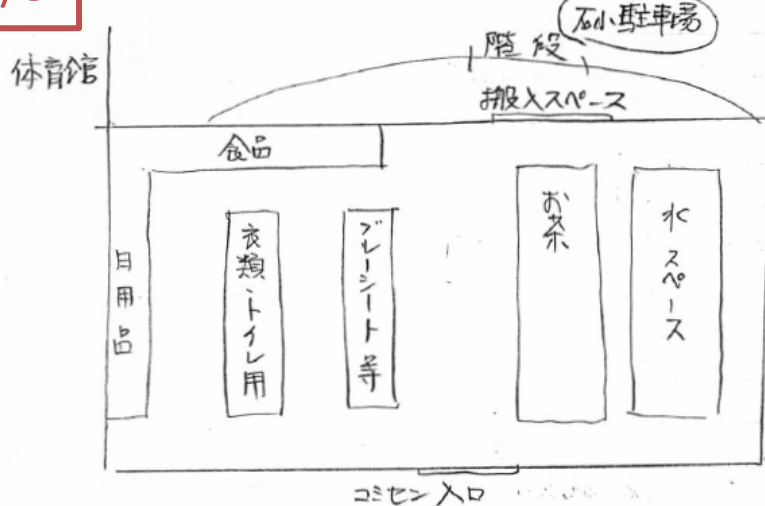
1/8

- ・ 物資配布の時間を10-16時に限定
- ・ 物資配布場所を別の場所へ移動

Bさん手記：物資受け入れと配布

1/8

コミセン 果会室の配直図



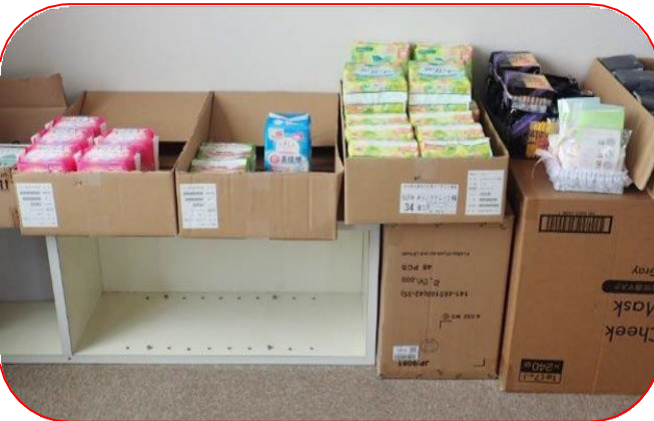
1/8

- 物資受け入れの体制整う
- 物資の配布場所を移動
- 体育館 ➡ 搬入の度、温度が下がる
➡ 外部の人が物資を取りに来る度
感染症の心配
- 水(断水続く)は、青年団、壮年会が管理
- 日用品、食品は女性部が管理(常時3名)



【インタビューより】

避難所のレイアウトを変更して物資を別の場所に、女性が物資を管理・配布した。断水が続いたので水の配布もあり、男性が対応することにした。在宅避難している人にも取りに来てもらい、その際に安否確認ができるようにリストを作って記入してもらった。



Bさん手記：健康の問題



感染症

1/11 インフルエンザ、コロナ発生 ➡ 教室4つを隔離室へ

1/15 コロナ2名

1/19 コロナ8名（隔離室6、自宅2）

感染症の対策

1/12 炊き出しから高齢女性を外す

1/14 毎朝検温、体調の聞き取り開始、消毒、手洗いの周知
ペットボトルに日付を入れる（飲み残さない）

その他

1/14 薬が切れる人が多くなる

メンタル面

1/7 「体が食事を受け付けない」と泣く

1/9 余震が怖く、夜中に起きだして話し出す

1/17 「皆疲れ切っているので言動に注意すること」

Bさん手記：安全の問題

1/17 祖母と避難していた特別支援学校に通う中学生女子が、男性のテントに招き入れられる

1/20 シャワーが届く

- ➡奇数日=男性、偶数日=女性 ルールを決める
- ➡男性のリーダーへ、安全対策を考えてと依頼

【インタビューより】

「避難所の中で男性による複数の女性へのつきまといがあった。一応警察には連絡して相談した。ただ、警察ができることは、防犯用のブザーを渡すことくらいだった。」

—避難所を利用した女性（年代は伏せる）





【事例】命と健康を守る初動期の支援

職場に避難者を受け入れ（女性:30代、40代）

家族の安否確認もできないなか、避難してきた住民約50人を職場の施設で受け入れた。備蓄の水や食料等を提供。家が倒壊した住民が2週間、滞在した。

職場のある建物を自身の判断で福祉避難スペースに定める（女性: 50代）

福祉避難所になるはずの施設はすべて壊滅した。そこで、指定避難所となっていた自身の職場がある建物の1Fの部屋に、「福祉避難所スペースです」と張り紙をして、車いすユーザーや介護が必要な人を、介助者も含めて受け入れることができた。

一時避難場所と避難所の混乱状態を統率する（女性: 60代）

住民300人が避難したお寺のトイレは、汚物が山盛りだった。数人に呼び掛けて汚物をどかし、新聞紙をちぎって入れたごみ袋を便器にかぶせて簡易トイレを用意した。その場でトイレの使い方のルールを定めて住民に説明した。

その後、地区の学校が避難所となったものの、運営できる人材がおらず混乱していたところ、地域の男性リーダーから運営を任せられ、1か月間、避難所の環境整備から在宅避難者の支援に至るまで、現場を取り仕切った。



【事例】 子ども・子育て中の母親の居場所

避難所や在宅避難者の家を自主的にまわってニーズを確認（女性：50代）

子どもの居場所が避難所に無く、学校が再開されないなか子どもを置いて仕事に行くことを懸念する母親もいたため、避難所の1室に子ども部屋を開設した。地元の保育士2～4名が対応し、12、13組の親子が利用した。母親のためのワークショップも開催したところ、「こういったことに協力したい、アイデアもある」という声が聞かれ、支援する側の人を増やす効果もあった。

【事例】 避難者が炊き出しの負担から脱する仕組みづくり

女性（30代）は、自ら被災しながらも炊き出しをしようと地元の料理人に声をかけて調理を効率化し、SNSを駆使して外からのボランティアを積極的に呼んで、被災者が炊き出しをしなくてもよいように、タイムスケジュールを作った。

【事例】 物資支援を通じた安否確認と連絡先リストづくり

避難所のレイアウトを変更して物資を別の場所に、女性が物資を管理・配布した。断水が続いたので水の配布もあり、男性が対応することにした。在宅避難している人にも取りに来てもらい、その際に安否確認ができるようにした。それで1000世帯のリストを作って安否確認をした。 **女性（60代）**

性別の視点による災害支援とは

1

体の作りに応じた支援

- 物資
(例: 生理用品)
- 更衣室
- 授乳室
- トイレ

2

日常の性別役割に沿った支援

- 女性は、食事の用意、育児・介護
- 男性は、リーダー役

3

性別役割を乗り越え担い手を増やす支援

- 役割分担を性別で決めつけない
- 女性も意思決定の場へ参画

地域の防災 このままで大丈夫？

静岡県危機管理部 2023年「令和4年度 自主防災組織実態調査」より

【自主防災組織】

- ✓ 会長が60歳以上…84%（70歳～ 33%）
- ✓ 会長が男性…99 %（全国平均, 96%）
（平成28年度調査）
- ✓ 54%で女性の役員が不在
- ✓ 強固な性別役割分担

【防災訓練など】

- ✓ 避難所運営ができる 36%、
運営に不安がある 64%

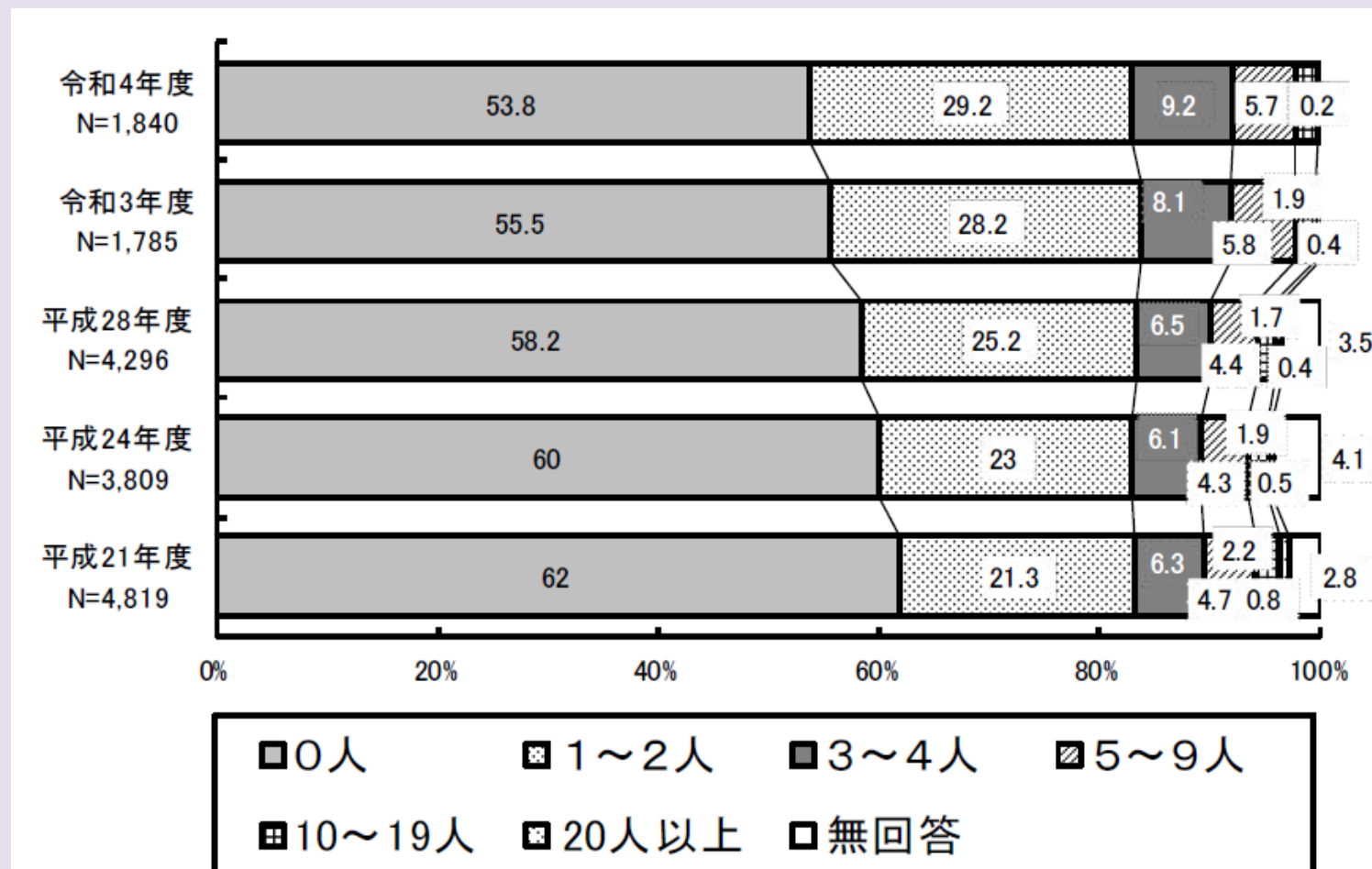
- 担い手の**高齢化**
- 若い層の**地域離れ**
- **男性中心の意思決定**
- 強固な性別役割分担
- 避難所運営**訓練実施率**の低さ
- **地域自治組織に単独依存**
＝テーマ型団体など多様な支援
が可能な団体との
コーディネーション機能の欠如



「令和4年度自主防災組織実態調査」より

- 静岡県＝自主防災発祥の地だが、果たして・・・・
令和4年の段階で県内の自主防災組織は、5,158組織

- 女性役員ゼロ 徐々に減ってきてはいるが 半数以上でゼロ



防災の学びをする女性が多い。しかし・・・

- 各地の**女性防災講座**は一向に下火になる気配がない
 - 女性グループによる地域防災活動**の実践報告は着実に増加
- [池田 2019b; Team防災
災ジャパン・ウェブサ
イトなど]



どう理解すればよい？

地域組織とつな
がっていない？

- 役員に女性がいない自主防災組織42.0%**
(結成率は73.0%)、
39.2%の市区町村は無回答、
➡ 実態把握すらされていない？
『2017年度女性・地域住民から見た防災・災害リスク
削減策に関する調査』[大沢編 2019]

我々は**女性ウエルカム**です。
**そういう女性がどこにいるのかわか
らない**状況です。女性防災研修の修
了生**名簿**の存在も知りませんでした。
静岡県地域防災活動推進委員T氏

若者・若手は？

県・危機管理部、令和4年、 「地域防災活動マニュアル」 「ふじのくに防災ナビ」(概要版)



9 様々な人がともに支え助け合う防災体制

これまでの自主防災組織は、責任者の大半が男性でした。防災の活動に女性や子ども・若者が参加しにくい雰囲気もありました。また、女性が自主防災組織に参加していても、重要な決めごとをする場には少ない状況です。一部の男性に防災活動の負担が集中することも問題でした。

性別、年代、国籍、障害の有無などにとらわれずに、それぞれが能力を十分に発揮することが、災害に強い地域づくりには欠かせません。

- ① みんなが安心して過ごせる避難所運営のポイント
 - 男女両方の運営責任者を配置する。
 - 役割分担は男女両方で担う。
 - 物資担当や給食担当などで男女の両方を配置する。
- ② 方針決定に女性も参画できる自主防災組織づくりのポイント
 - 男女の両方がリーダー(役員)になる。
 - 仕事別の班分けに、男女とも配置する。
- ③ 地域のみんなが参加する防災訓練のポイント
 - 女性、子供、若者、外国人などにとらわれずに、地域住民が参加しやすいよう工夫する。
 - 役割を性別で決めない。
 - 訓練内容による男女の区別をしない。

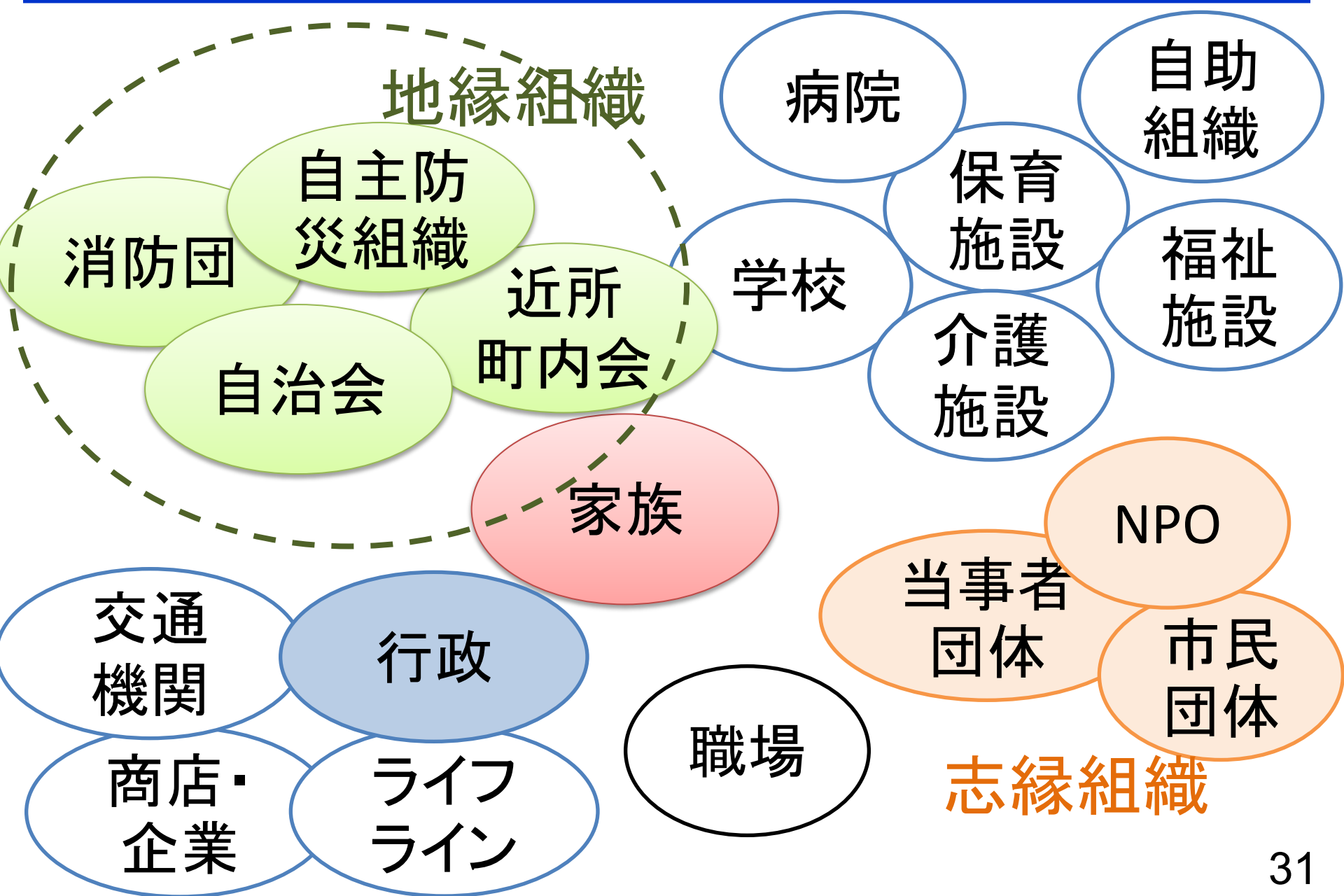
静岡県では……

- 研修や人材育成は行われてきた
- 防災を学び、地域で活動したい女性は増えた
- しかし、自主防災組織に女性の役員は増えていない

- 啓蒙啓発、計画やマニュアルへの記載も行われてきた
- しかしそれだけでは、変化は少なかった

何が問題なのか？ どうすればよいか？

身近な地域における防災まちづくりの担い手





静岡県 ～男女共同参画の視点から～ みんなが共に支え助け合う防災ブック

<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/jinkennpo/danjokyodo/1058838.html#group1>



1. みんなが安心して過ごせる避難所
2. 男女が共に担い手になる自主防災組織
3. 地域 みんなが参加する防災訓練

● 避難所運営のポイント チェックリスト ●

〈運営方法〉

- 運営責任者には男女両方を配置
- 運営組織に多様な立場の代表が参画
 - ・ 介助が必要な人、障害者、乳幼児がいる家庭の人、PTA、中学生・高校生、外国人
- 各活動班に男女両方を配置（できればそれぞれ複数）
 - ・ 特に炊き出し、食事の片付け、清掃などは男女両方で
- 物資担当者には男女両方を配置・・・❶
 - ・ 女性用品（生理用品、下着等）のニーズ把握、女性用品の提供は女性が対応
 - ・ 女性用品は女性専用スペースやトイレに置く
- 災害ボランティアの支援も積極的に活用
 - ・ NPO、専門家など外部の支援も活用



さらに詳しい
国や県の資料は
こちら



ボランティア
活躍事例はこちら

〈人権と安全〉



相談窓口は
こちら

□ 相談窓口、支援機関の情報を掲示・・・②

- ・DV、男女別、高齢者、子ども、妊産婦、障害者、外国人など

□ 暴力を許さない環境づくり・・・③

- ・啓発ポスターの掲示
- ・巡回警備（就寝場所、男女別のスペース、車中泊エリアを重点的に）
- ・防犯ブザー、ホイッスルの配布
- ・照明の増設
- ・2人以上で行動する、移動する際は声をかけあう

□ 避難者名簿の管理を徹底

- ・DVやストーカーの被害者を守るため、「名簿公開の可否」欄を作成
- ・世帯ごと作成するなど、プライバシーに配慮する

□ 感染症予防・・・④

- ・手指消毒、マスク、トイレ専用の履物、ゴミの分別、食品の管理（アレルギー表示も）、土足禁止など

□ 多様なニーズ、在宅避難者の把握・配慮・・・⑤

- ・高齢者、乳幼児、障害のある人、外国人、性的マイノリティの人など
- ・在宅避難者への情報伝達、物資提供

①～⑤のチェックポイントは右のページで確認しましょう

● 避難所レイアウトの工夫例 ●

開設当初から設置しましょう

- ☐ 授乳室 ☐ 男女別のトイレ ☐ 多目的トイレ
- ☐ 男女別の物干し場 ☐ 男女別の更衣室 ☐ 多目的個室

育児・介護中や障害のある人の意見を聞いて前もって決めておきましょう！

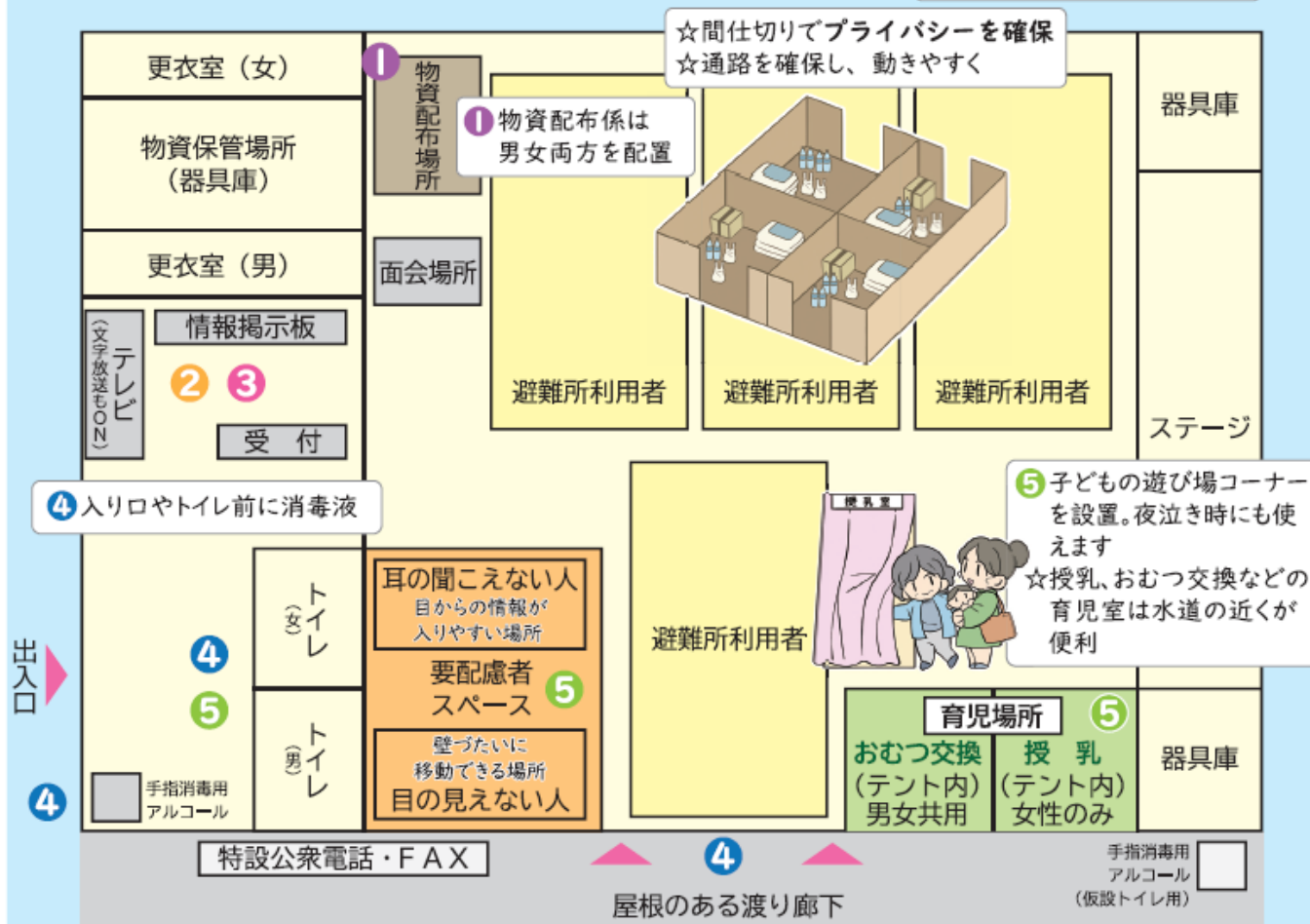
<学校の体育館を使用する例>

⑤ 男女別 + 多目的の更衣室

☆洗濯物干し場は男女別に、外からみえないよう工夫

④ 土足厳禁！

(避難所内を清潔にキープ)



(静岡県避難所運営マニュアル(令和6年2月)を参考に作成)

● 組織づくりのポイント ●

平時から
しておくこと

□ リーダーは男女両方

- ・男女共に力を発揮してこそ、災害に強い地域に
- ・役員は男女どちらかに偏らず、意見の出しやすい雰囲気

□ 仕事別に班分けし、性別に偏らない配置

- ・班の編成では、性別で役割を固定しない（複数員配置できるなら男女両方）
たとえば、施設管理班＝男性、保健・衛生班＝女性などと性別で班を決めない

□ 様々な団体との連携

- ・地域の女性団体、市民団体、学校、保育所や企業などと平時から連携し、災害時にも助け合える体制づくり

□ 隣近所の助け合いの仕組みづくり

- ・普段から顔の見える近所づきあいをして、助け合える関係

□ 多様な立場の人が参画、少数派の意見も運営に反映

- ・高齢者、子ども・若者、障害のある人、性的マイノリティの人、外国人などから意見を聞き、組織の運営に反映させる

□ みんなが参画する防災訓練を定期的実施

- ・ 平日昼間、夜間、休日など時間帯や場所を変えて実施
- ・ 地域の女性団体、市民団体、学校、保育所や企業などと連携

□ だれもが参加しやすい工夫を

- ・ いろいろな世代や様々な状況にある人々が興味を持ち参加しやすい内容の訓練
- ・ 多様な人々のニーズに配慮した訓練

男性、女性、小中学生、高校生、大学生、
高齢者、障害のある人、外国人など

□ 役割を性別で固定しない

- ・ 「機器操作は男性、炊き出しは女性」
などと決めつけず、柔軟な役割分担

- ・ 避難所レイアウトを実際に作る
- ・ 地域のイベント（祭り、運動会など）
と一緒に
- ・ 子ども会で防災ゲーム
- ・ 親子教室や料理教室と一緒に

□ 備蓄品や防災資機材選びは様々な人の視点を反映

- ・ 誰もが使いやすい防災資機材を用意
- ・ 各家庭の備蓄は、性別、育児や介護等、家族の事情に応じて

□ 避難所のシミュレーションを

- ・ 実際の生活を想定した避難所の配置を前もって検討
- ・ 年齢や性別を問わず、多くの人が防災資機材を実際に
使えるような訓練を



災害対応力を強化する女性の視点
～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイド
ライン～

避難所チェックシート



避難所チェックシート

確認日： _____ 確認者： _____

① 避難所のスペース

プライバシー	☐ 授乳室（椅子、授乳用の枕やクッション、おむつ替えスペース）がある ☐ 男女別更衣室、男女別休養スペースがある ☐ 男女別更衣室、男女別休養スペースが離れた場所にある ☐ 間仕切り・パーティションがあり、その高さや大きさなどが、プライバシーの保護の観点から、十分である
要配慮者	☐ 適切な通路が確保され、段差が解消されている ☐ 乳幼児のいる家庭用エリアがある ☐ 介護・介助が必要な人のためのエリアがある ☐ 単身女性や女性のための世帯用エリアがある ☐ 女性専用スペース（女性用品の配置・女性相談）がある ☐ キッズスペース（子供たちの遊び場・勉強・情報提供）や保育エリアがある ☐ 足腰が悪い人のための寝具（段ボールベッド等）が提供されている
トイレ	☐ 安全で行きやすい場所に設置されている ☐ 女性トイレと男性トイレは離れた場所にある ☐ 女性トイレ：女性用品・防犯ブザーの配置、仮設トイレは女性用を多め ☐ 男性トイレ：尿取りパット等の配置 ☐ 多目的トイレが設置されている ☐ 洋式トイレが設置されている ☐ 屋外トイレは暗がりにならない場所に設置されている ☐ トイレの個室、トイレまでの経路に夜間照明が設置されている ☐ トイレに錠がある
入浴施設	☐ 安全で可能な限りバリアフリーに対応した入浴施設がある ☐ 男女問わず一人で（又は付き添いを受けながら）入浴できる施設がある
安全	☐ 避難所の危険箇所や死角となる場所の把握・立入制限がされている ☐ 間仕切り・パーティションが高い場合は個室の定期確認がされている
その他	☐ 各部屋に部屋札（ピクトグラム、やさしい日本語）が設置されている ☐ 掲示板による情報提供（インターネットが使用できない人・情報が届きにくい人向け）がされている

② 避難所の運営体制・運営ルール

運営体制	☐ 管理責任者には男女両方を配置している ☐ 自治的な運営組織の役員に女性が3割以上参画している ☐ 運営組織に、多様な立場の代表が参画している ・介護・介助が必要な人 ・障害者 ・乳幼児がいる家庭の人 ・PTA ・中学生・高校生 ・外国人（居住者が多い場合）
運営ルール	☐ 避難者による食事作り・片付け、清掃等の負担が、特定の性別や立場の人に偏っていない（男女を問わずできる人で分担） ☐ 女性用品（生理用品、下着等）は女性担当者が配布を行っている
ニーズ把握	☐ 避難者から要望や困りごとを受けられる仕組み体制がある（トイレ等への意見箱の設置） ☐ 女性や子育て・介護中の家庭の要望や困りごとを積極的に聞き取り、運営に反映させている ☐ 避難者名簿を作成し情報管理が徹底されている（氏名、年齢、性別、健康状態、保育や介護を要する状況、避難場所、在宅・車中泊、外部からの問い合わせに対する情報の開示／非開示の可否） ☐ 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルケア・健康相談が実施されている

③ 暴力防止・安全の確保

☐ 配偶者からの暴力の被害者等の避難者名簿の作成と情報管理が徹底されている ☐ 男女一緒に行う防犯体制がある ☐ 就寝場所や女性専用スペース等へ巡回警備が行われている ☐ 避難所の校庭など、敷地内に車中泊がある場合は、車中泊エリアの巡回警備が行われている ☐ 暴力を許さない環境づくりが整備されている（啓発ポスターの掲示、相談カードの設置、照明の増設、女性や子供は2人以上で行動する、移動する際はまわりの人に声を掛け合う） ☐ 防犯ブザーやホイッスルが配布されている ▶ 不安や悩み、女性に対する暴力等に対する相談窓口、男性相談窓口が周知されている
--

④ 衛生環境・感染症予防

☐ 感染症予防（手洗い・消毒・マスク）対策がされている ☐ トイレの使用方法・汚物の処理などの衛生対策が行われている ☐ トイレ専用の履物（スリッパ等）が使用されている ☐ ゴミの収集や分別が徹底されている ☐ 炊き出しを行う際は、調理の手順の表示や食品の管理、主要なアレルギーの有無の表示、残食の廃棄が徹底されている ▶ 育児用ミルク（粉ミルク／液体ミルク）を配布する際は、授乳アセスメントシートに基づき説明した後に配布している

⑤ 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者への支援

☐ 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者情報も登録されている（特に要配慮者の把握のため） ☐ 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者への食料・物資配布の時間や場所がある ☐ 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者への支援情報等を伝達する体制が整っている ☐ 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者のニーズを把握する体制がある
--

38

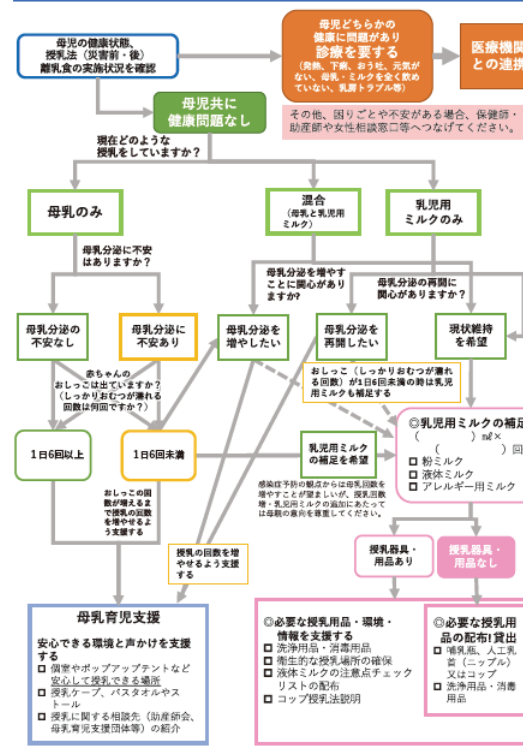
備蓄チェックシート



授乳アセスメントシート



女性用品	☐ 生理用ナプキン（普通、長時間向け等） ☐ おりものシート ☐ サニタリーショーツ ☐ 防犯ブザー／ホイッスル ☐ 中身が見えないゴミ袋 ☐ 女性用下着（各種サイズ）
若者（女性）	☐ 女児用下着（発達段階ごとに適したサイズ、形態のもの） ☐ 防犯ブザー／ホイッスル
妊産婦	☐ 妊産婦用下着 ☐ 妊産婦用衣類 ☐ 防犯ブザー／ホイッスル ☐ 母乳パッド
乳幼児用品	☐ 粉ミルク（アレルギー用含む）又は液体ミルク ☐ 枕やクッション（授乳室ごとに数個）、授乳用ケープ・バスタオル等（ストールでも可） ☐ 乳幼児用飲料水（軟水） ☐ 哺乳瓶・人工乳首（ニップル）・コップ（コップ授乳用に使い捨て紙コップも可）・消毒剤・洗剤・洗浄ブラシ等の器具、割りばし ☐ 湯沸かし器具・煮沸用なべ（食用と別にする） ☐ 離乳食（アレルギー対応食を含む） ☐ 皿・スプーン ☐ 乳幼児用紙おむつ（各種サイズ、女児用、男児用）、おむつ用ビニール袋 ☐ おしりふき
介護用品	☐ 大人用紙おむつ（各種サイズ、女性用、男性用）、おむつ用ビニール袋 ☐ 取卸しパッド（女性用、男性用） ☐ おしりふき ☐ 介護食（おかゆ、とろみ食、とろみ剤） ☐ 簡易トイレ・据置式洋式トイレ ☐ 防犯ブザー／ナースコール ☐ 義歯洗浄剤
外国人（女性）	☐ スプーン・フォーク ☐ ストール ☐ 宗教上の理由に関わらず食べられる食べ物
共通	☐ フライバシーが十分に保護される聞け切り・パーティション ☐ 足腰が重い人のための寝具（段ボールベッド等）



	☐ この週遅刻に遅刻中 ☐ 在宅遅刻（自宅・親族宅・その他（ ）） ☐ 車中遅刻 ☐ その他（ ）
遅刻状況	住所： 連絡先：
お母さんのお名前	（ふりがな）
授乳中のお子さんのお名前	（ふりがな）
言語（初級院等障害・日本語の習得度）	視覚覚等障害書、有：見る・聞く・話す・読む 使用言語（ ） 聴覚者有 聴覚アプリ 筆談 その他
家族構成	夫（パートナー）、子ども、人。他（ ）
③授乳等の状況	
①授乳中のお子さんの月齢	カ月
②お子さんは元気ですか？	元気 ☐ あり ☐ 普段とちがう（ ）
③おしこ・うんちはどうですか？	おしこ（おむつの濡れ） ☐ 1日6回以上 ☐ 1日6回未満 うんちの状態 ☐ 普段どおり ☐ 普段とちがう（ ）
④赤ちゃんの病気・アレルギー・腫瘍など	無 有（現在も落ち着いている）：（ ） 有（現在症状有り）：（ ）
⑤お母さんの病気・不調・腫瘍など	無 有（現在も落ち着いている）：（ ） 有（現在症状有り）：（ ）
⑥災害時の授乳法	a.母乳のみ b. 母乳とミルク c. ミルクのみ
⑦現在の授乳法	a. 母乳のみ b. 母乳とミルク c. ミルクのみ d. 何も飲めていない
⑧直接授乳以外で（ミルク粉）使っているものがあれば量・回数・方法	搾母乳（□口・□搾乳器）・ミルク・その他（ ） 1回（ ）ml x （ ）回/日 哺乳びん・コップ・その他（ ）
⑨母乳分泌について	母乳分泌に不安が ☐ ある ☐ ない 母乳分泌を増やそうと、母乳再開に関心 ☐ ある ☐ ない
⑩離乳食の状況	□始めている □始めていない [回/日 硬さの目安：ヨーグルト・豆腐・バナナ・肉団子]

母子手帳	あり	なし	不明
哺乳瓶			本
人工乳製(ニップル)			個
粉ミルク	g 缶/パック		個
アレルギー用粉ミルク	g 缶/パック		個
液体ミルク	ml		本
調乳用の水	ml		本
哺乳瓶洗浄・消毒用品		日分	
おむつ	サイズ:		枚
おしりふき			パック

革の裏は勿論、ケア、縫製状態に加え、使用時の痛み等についてお問い合わせ、専門機関等につたえてください。

ありがとうございました

